

生物多様性ちばニュースレターは、平成18年11月～平成28年10月の10年間で50号を発行しました。記念すべき50号の発行に当たり、これまでに取上げた特集記事やコラムを振り返りながら生物多様性について考えます。

1 「生物多様性ちば県戦略」策定に向けて

平成18年当時、国では生物多様性国家戦略を策定し、生物多様性の保全や再生、持続可能な利用に取り組んでいましたが、その成果が十分に発揮されたいとはいえない状況から、千葉県において地域の自然環境等を踏まえた独自の戦略づくりがスタートしました。

これにあわせて情報発信を目的としたニュースレターが平成18年11月1日に創刊され、千葉県の豊かな環境を保全・再生していくために、「生物多様性ちば県戦略」の策定に向けた専門委員会の活動、県内各地で行われたタウンミーティング、ちば生物多様性県民会議や32の部門からなる戦略グループ会議の開催状況等を紹介しています。専門委員による「情報が守る生物多様性」、「地球温暖化と生物多様性」、「生物多様性と千葉県の未来選択」などのレポートが掲載されています。

2 生命（いのち）のにぎわいとつながり



平成20年3月に「生物多様性ちば県戦略」が策定され、同年の4月から生物多様性センターが設置されました。ニュースレターは、センター設置後の平成20年度からは年間5回、「生命のにぎわいとつながり」と題して、特集記事、生物多様性の取組とコラムの構成により発行しています。発行部数は6,000部で、各都道府県、県内の市町村、図書館、公民館や各種催し物の際などに配布しています。

8号の特集記事としては、策定された生物多様性ちば県戦略の解説と生物多様性センターの役割を取り上げました。また、19号と20号では、平成22年10月に愛知県で開催された生物多様性条約締約国会議（COP10）について生物多様性センターの参加報告も含めて紹介しています。

特集記事では、これらの他にも里山里海の生態系評価や学校ビオトープ、千葉県の絶滅危惧種のシャープゲンゴロウモドキ、ヒメコマツ、ミヤコタナゴの保全活動、アライグマやカミツキガメなどの外来生物対策、生命のにぎわい調査団員の生きものの調査結果の報告などを取り上げてきました。また、里山や海、干潟、湖沼、磯の生きもの、地衣類や土壌動物の多様性などについても紹介しています。

生物多様性センターの取組を報告するトピックス記事では、主に広く情報発信をする生物多様性サテライトの設置、多様な主体との連携を図る市町村職員研修会や企業・連携大学とのセミナー、生命のにぎわい調査団現地研修会・フォーラムなどの活動報告をしています。

3 コラムで紹介された生きもの

ニュースレターのコラムでは、毎号「千葉県の希少生物」又は「千葉県の外来種」を紹介しています。皆様が良くご存知の生きものも紹介しましたが、名前だけでは何か分からない生きものも登場しています。これまでに取上げた生きものは次のとおりです（赤字は希少種、青字は外来種）。

【鳥類】 **サンカノゴイ**、**ウズラ**、**サシバ**、**ミゾゴイ**
 【魚類】 **メダカ**、**ミヤコタナゴ**、**タイリクバラタナゴ**、**チャンネルキャットフィッシュ** 【貝類】 **ハマグリ**、**ムラサキガイ**、**カワヒバリガイ**、**タテジマフジツボ**
 【甲殻類】 **アリアケモドキ**、**ハマガニ**、**アメリカザリガニ**
 【両生類】 **ニホンアカガエル**、**アズマヒキガエル**、**タゴガエル**、**ウシガエル** 【爬虫類】 **ニホンイシガメ**、**アカウミガメ**、**ミシシippアカミミガメ** 【昆虫】 **ヒメボタル**、**オオルリハムシ**、**ワスレナグモ**、**オカダンゴムシ**、**セアカゴケグモ** 【哺乳類】 **キツネ**、**アカゲザル**、**キョン**
 【植物】 **イシモチソウ**、**フジバカマ**、**ナミキソウ**、**オオミズトンボ**、**オオフサモ**、**ナルトサワギク**、**ナガエツルノゲイトウ**、**オオキンケイギク**、**アツバキミガヨラン**、**アメリカオニアザミ** 【地衣類・菌類】 **チャオニテングタケ**、**キンブチゴケ**



上段【希少種】ヒメボタル（倉西良一）、フジバカマ（天野誠）、ワスレナグモのメス（谷川明男）

下段【外来種】アメリカザリガニ（駒井智幸）、アカゲザル（池田文隆）、ナルトサワギク（斎木健一）

※（ ）内は撮影者

これからも、本ニュースレターを千葉県の生物多様性に関わる普及啓発の情報発信ツールの一つとして、身近な生きものを通して、生物多様性センターの取組を県民の皆様にわかりやすく紹介していきます。

（酒井 さと子 千葉県生物多様性センター）

授業に役立つ生物多様性研修を開催しました

平成28年7月22日（金）に千葉県立中央博物館を会場として、「平成28年度授業に役立つ生物多様性研修」を開催しました。この研修は千葉県内の小・中・高等・特別支援学校教員を対象に、生物多様性に関して理解を深めていただき、学校での環境教育の充実を図るものです。今年度は千葉県生物多様性センターの職員3名が講師として講話及び実習を行い、10名の先生方に参加していただきました。

午前中は「授業の中で生物多様性をどのように扱うかー絶滅危惧種の保全を例にー」という講話を行い、生物多様性の基礎から、生物の生息環境の破壊や外来種の導入など多様性を変質させる要因、授業で生物多様性を扱う際の注意点や方法までを紹介しました。次に博物館の生態園内で、主に小学生を対象とした野外学習プログラム「森の調査隊」を紹介しました。このプログラムでは自然環境の中にある色、形、におい、音の多様性に触れ、それを他人に自分の言葉で説明することに主眼を置いており、研修の参加者には児童生徒役を実際に体験していただきました。

午後は「土壌動物の多様性とはたらき」について、土壌動物の様々なグループの見分け方や生態系の中で果たす役割を紹介しました。また、実際に採集した土からピンセットなどの道具を使って土壌動物を抽出し、顕微鏡で観察しました。自然環境が残された公園のような場所であれば、私たちの身近にある土にも多くの種が含まれているため、土壌動物は生物多様性を学校教育に取り入れるうえで格好の教材となります。また、授業を通して顕微鏡の使い方を覚えることができるという利点もあります。今回の研修ではダニ・クモ類や多足類（ヤスデやムカデの仲間）、トビムシやアリなどの昆虫類を多く観察することができました。

本研修は来年度も実施される予定です。皆様がお勤めの学校、ご子息が通われている学校でも生物多様性教育を導入してみたいかがでしょうか。

（栗田 隆気 千葉県生物多様性センター）



顕微鏡で観察した土壌生物

生物多様性ちば企業ネットワークの勉強会を開催しました

県では、企業による生物多様性の保全及び持続可能な利用の取組を支援するため、平成25年4月に「生物多様性ちば企業ネットワーク」を立ち上げ、毎年勉強会を開催しています。

平成28年8月3日（水）にAGC旭硝子千葉工場（市原市）で平成28年度第1回目の勉強会を開催しました。

今回は工場緑地内の植栽木だけでなく、周辺で見られる鳥や昆虫などの生き物を観察し、簡単な調査方法や標本採集の解説を行いました。

参加者はネットワーク企業のメンバー8社から21名お越しいただきました。特に開催地であるAGC旭硝子からは、7月8日結成された「生物多様性チーム」や有志12名が参加され、生物多様性に対する意気込みが伝わってきました。

初めにクラブハウスの研修室でオリエンテーションを行い、いざバスに乗って現地へ向かおうと窓のカーテンを開けると土砂降りの雨。おまけに雷も鳴り始め、一同啞然としてしまいました。そこで急遽予定を変更し、観察会終了後に実施を予定していた植物標本の作り方、昆虫や鳥の解説を1時間ほど行ううちによりやく雨雲が通り過ぎました。

水たまりがある工場内をバスで移動し、現地へ到着した後センター職員から植生調査用具の解説、哺乳類調査用に予め設置しておいた赤外線センサー付き自動撮影カメラの説明がありました。その後、緑地内の動植物の観察を行い、トベラ、ヘクソカズラ、ノブドウ、ゴマダラチョウの幼虫、シジューカラ、クロベンケイガニ等を見つけました。



工場敷地内で説明を受ける参加者の皆さん

研修室へ戻ってから本日観察した生き物の確認を行い、標本の作製方法の解説が生物多様性センター職員からありました。また、4日前に仕掛けた自動撮影カメラに写っていたハクビシンの動画をスクリーンへ映し出すと、参加者一同、食い入るように見つめていました。

荒天であったにもかかわらず、予定のプログラムを無事に終えることができ、大まかな調査方法を学べたと思います。今回、下見から当日にかけて開催地であるAGC旭硝子の皆様には大変お世話になりました。

AGC旭硝子は絶滅危惧種ヒメコマツの育て親「ヒメコマツ系統保存サポーター」にご協力いただき、工場正面通りの緑地に苗木を植樹しました。

さらに生物多様性の普及啓発を目的としたパネル展示「生物多様性サテライト」の設置にもご協力いただきました。クラブハウスのラウンジに設置していただいたことで、生き物に関する情報が気軽に職員やゲストの方の目に留まるようご配慮いただきました。この場を借りてお礼申し上げます。

(大木 淳一 千葉県生物多様性センター)



県内で10番目に設置されたAGC旭硝子千葉工場内の生物多様性サテライト

お知らせ

○千葉県内にキャンパスを持つ大学で、県と生物多様性保全と自然保護に関する連携協定を結んでいる連携大学の研究成果発表会を開催します。皆様のお越しをお待ちしています。

日時：平成28年11月26日（土）13:00～16:20
27日（日）エクスカッション9:00～12:00

場所：銚子市潮見町15番地8
千葉科学大学マリーナキャンパス4号館
防災シュミレーションセンター

内容：野生生物の保護管理
～野生鳥獣の増殖と外来生物問題を中心に～

定員：先着100名、参加無料

○ミヤコタナゴ保全シンポジウムの開催（予告）

平成29年1月19日(木)にミヤコタナゴの保全に向けたシンポジウムをいすみ市で開催します。詳細は追って、生物多様性センターのホームページに掲載します。
(酒井 さと子 千葉県生物多様性センター)

千葉県の外来種

ハクレン



(撮影：鈴木 規慈)

この名前にどれくらいの方がピンとくるでしょうか。埼玉県久喜市栗橋付近の利根川で集団ジャンプする魚として知っている方がいるくらいではないでしょうか。しかし、実は千葉県にとって無関係な魚ではないのです。

ハクレンはユーラシア大陸原産の全長1m以上に成長する大型のコイ科魚類です。大柄な割には主に植物プランクトンを食べるとされ、北米ではチョウザメ等との競合が危惧されていますが、日本での生態系被害は知られていません。アオコ対策として様々な水域に導入されましたが、目立った効果はなかったようです。鱗が非常に細かいため銀色に輝き美しい一方で、目が口より下についているため、美しさより顔つきが目立つ魚です。

第二次世界大戦前後に食用としてソウギョ等とともに日本に導入されたと考えられていますが、定着したのは利根川水系のみとされています。ハクレン等の卵は大河川を流れている間に孵化するので、すぐに海に達する日本の河川には適応できなかったようです。味はイマイチだったようで普及にはいたりませんでした。

さて、そんなハクレンが私たちに関わる日が年に数日だけあります。夏に大雨が降り、水量が急激に増加すると一斉に産卵をします。その量は膨大で、時には1♀あたり200個以上にもなります。イクラが数十個も入ったコップの水を想像してみてください。とても飲めたものではありません。そこで、利根川から取水している浄水場では、薬剤を適切に注入し、安全で良質な水を供給し続けているのです。

ハクレンは、ジャンプでは人々を楽しませ、産卵では迷惑をかけています。普段は気付かなくても、様々な生物が私たちの生活に関わっていることを少しでも感じていただければと思います。

(古川 大恭 千葉県生物多様性センター)



生物多様性ちばニュースレター No50 平成28年10月31日発行

編集・発行

千葉県生物多様性センター（環境生活部自然保護課）

〒260-8682 千葉市中央区青葉町955-2（千葉県立中央博物館内）

TEL 043(265)3601 FAX 043(265)3615 URL <http://www.bdcchiba.jp>